



JCOMM 通信

日本モビリティ・マネジメント会議
ニュースレター

Vol.29 ● 2013.9.30

【発行】 JCOMM実行委員会
ニュースレター編集部
【お問合せ】 筑波大学 谷口綾研
大阪大学 松村研

mail: info@jcomm.or.jp

MMに関連する会告掲載希望やご意見等、
随時受け付けております。

今年の夏はとびきりの暑さでしたが、朝晩の涼しさにようやく秋の気配を感じられるようになってきました。今号は、先日、仙台市にて開催された第八回JCOMMの報告を中心に届けます。

イベント報告

第八回JCOMM報告

去る七月十二日から十四日までの三日間、仙台市市民会館にて、第八回日本モビリティ・マネジメント会議が開催されました。皆さまのご協力と地元自治体、企業のご尽力で無事開催することができ、厚くお礼申し上げます。

今回も多くの方にご参加いただき、口頭発表十八編、ポスター発表四十編と盛況のうちに終了しました。参加者数は三百三十名を超え、市民の方々の参加もあり、市民と一体となったMMを展開する、仙台らしい大会になりました。

【会議概要】

初日十二日のプレイベントでは、小島博仁仙台市都市整備局長より「仙台市のまちづくりと公共交通」と題した基調講演をいただいたのち、トークセッションでは「東北の地方都市・農山漁村における公共交通」や「仙台市の公共交通利用促進のために市民の立場



▲ 写真1 口頭発表セッションの様子

JCOMMセッションでは、中大京都大学大学院教授をコーディネーターに、全国五社の地方民間鉄道事業者の方々と「地方民間鉄道がんばろう！〜地方鉄道におけるMMの役割と今後の展望」と題したパネルディスカッションが開かれました。その後、オープニングセッションでは平成二十五年JCOMM賞の授賞式が行われました。一日目のポスターセッションA、口頭発表（震災とMM、MMの戦略的な展開）を終えた後の懇親会では、仙台の伊達武将のアトラクションに魅了されながら、様々な意見交換が展開されました。



▲ 写真2 ポスター発表の様子

「できること」をテーマに議論が展開されました。

二日目も「観光・余暇・買い物活動とMM」「多様な主体によるMM」「MMと情報化」「MMの継続」の口頭発表セッションに加え、ポスターセッションなど多彩なプログラムで構成され、MMに関する様々な議論が交わされました。

三日目は三陸地域への現地見学会が催されました。仙台市で集合ののち、復興商店街が形成される南三陸町志津川地域の視察や運行が始まって間もないBRTに実際に乗車し、東日本大震災からの復興の現状と、モビリティを含め

た今後の展開の方向性について深く認識をする機会となりました。

発表に用いられた資料は、JCOMMのウェブページにて公開されており、是非ご活用ください。

さて、第九回JCOMMは、北海道帯広市での開催を予定しております。参加者の皆さまからの貴重なご意見を参考に、よりよい運営に努めてまいりたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いたします。



▲ 写真3 現地見学会の様子

先回引き続き、スウェーデンはカールスタッド市の公共交通をご紹介します。

カールスタッド市営交通は、夏期のみ、運河や川、



まちと交通 vol.12

移動を楽しむ～カールスタッドの水上バス～



湖を利用した水上バスを運行しています。観光、レジャー用の路線もありますが、隣町のクリステンハムまで通勤で利用する人もいます。市内の路線は、陸上のバスと同じICカードを利用でき、運賃も同様に七十五分間乗り放題となっています。改めてチケットを買う必要がないので「今日は水上バスで行ってみようかな」と気軽に楽しめる環境となっています。

とはいえ、気持ちのよい夏の日には水上バスに乘ろう！と考えるのは皆同じのようで、晴天の日はかなり混在し、定員に達す

ると乗船できないこともありま

す。特に人気があるのはまちの中心から南西部の公園に向かう路線です。途中、ポートやヨットが並ぶマリーナ、一八三七年に造られたという閘門を通り、花で飾られた橋や道行く人々を眺めることができるこの路線は、陸上のバスで十分、歩いて二十五分の行程を七分かけて進みます。乗客は皆、その移動をゆったりと楽しんでいきます。

JCOMM 法人会員紹介

vol.12 日本能率協会総合研究所

㈱日本能率協会総合研究所は、国や地方自治体の交通、都市政策、環境まちづくり、防災分野等に関する政策立案・計画立案のための調査研究事業等に取り組んでいるシンクタンクです。当社は様々な地域で多様なMMに取り組んでいます。その一例として市内全十三小学校でMMを行っている神奈川県秦野市の事例を紹介します。

秦野市では十一のTDM施策のひとつとして、平成十六年度より小学校でのMMに取り組んでいま

すが、当社は企画段階から関わってきました。同取り組みでは小学生を対象にスライド等を使った座学と行動プランの作成から構成される授業を毎年数校ずつ行い、本年度市内全十三小学校で二巡目の取り組みが終了します。秦野市の特徴としては、公共交通部門と教育委員会が協働で事業に取り組んでいることがあげられます。教育委員会、小学校の理解のもと継続的に取り組み、授業内容等の改善を図るとともに、先生を対象とした研修会を行うことにより、学校主体の取り組みとして定着しつつあります。

今後もこれらの経験を活かし、



▲ 写真 行動プラン作成風景

地方自治体のまちづくり、交通に関する取り組み等を支援することにより地域社会への貢献に努めていきたいと思えます。

きつかけは、日々の道路交通の計画、設計等に関わる業務をこなすなかで、自分の仕事に本当に役に立っているのか疑問を持ち始めたことにあります。例えば、交通渋滞対策にしても、車が増えて、渋滞して、その対策として道路を造ったり拡幅したりして、でもまた車が増えて渋滞、この繰り返しの中で堂々巡りの仕事をしているような思いを強くしていたので

私とMM

第5回：北海道開発技術センター 原文宏

あの頃、私は現場感覚からMMの必要性を感じ、あまり理論的なことを考えることなく、実践を通じて試行錯誤していました。でも、行政にも、市民にも参加してもらうには、理論的な裏付けがなくては説得力がなく、広がりも望めないことを、薄々感じていました。そんな時、京都大学の藤井聡先生が書かれた「土木計画のための社会的行動理論―態度追従型計画から態度変容型計画へ―」という論文に出会って、これだと思いました。このような「理論」という裏付けがあったからこそ、MMが全国的に拡大したと思います。

さらに、MMの普及と情報交換の促進を図るために、今年も七月に「第八回日本モビリティ・マネジメント会議」が仙台で開催され、来年は北海道帯広市での開催が決まっています。私は、MMが全国普及することと日本社会は絶対に良くなることを確信していますので、今後も、MMの普及に向けて、できる限りの貢献をしたいと考えています。

そんな時、北海道開発局から渋滞対策として、交差点改良のようなハード対策とは異なるソフト対策はないだろうかという相談を受け、これはチャンスと思いました。そして、北海道大学の高野伸栄先生を訪ねたとき紹介いただいたのが「トラベルブレンディング」でした。私と、高野先生、当時は同僚だった谷口綾子氏（現筑波大学）の三人で、文献を読み、自分たちなりに解釈して、一九九九年にパイロット的に札幌市内の三地域で実施したトラベルブレンディング的な試行が、私にとつての最初のMMの実践です。